

会派調査（研修）報告書

令和 8 年 7 月 15 日

胎内市議会議長
八幡 元弘 様

(報告者) 会派名 公 明 党

代表者名 渡 辺 栄 六

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 8 年 6 月 29 日 至 令和 8 年 6 月 30 日 1 泊 2 日 (2 日間)	調査・研修 場 所	茨木県かすみがうら市 千葉県銚子市
調査・研修 事 項	かすみがうら市 かすみがうら市ウェルネスプラザについて 銚子市 洋上風力発電風車メンテナンス事業について		
調査・研修 出 席 者	渡辺栄六 (政和会) 天木義人 小野徳重 森本将志 坂上隆夫 渡辺雅茂 佐藤武志		
相 手 方 (対応者)	かすみがうら市： 健康増進課 課長 豊崎 良憲 保健福祉部 部長 羽成 英明 議会事務局 係長 鈴木 利広 銚子市： 銚子市議会議員 岩井 文男 企画課 室長 小足 雄高 企画課 主査 林 慶彦 議会事務局 局長 長谷川 正広		

調査の結果または概要

【かすみがうら市】 ウェルネスプラザの施設内には、市民窓口や保健センター、子育て支援機能、介護予防・健康づくり機能、多目的スペースなどが配置されており、これまで分散していた行政サービスを集約することで、市民の利便性向上と行政運営の効率化を図っている。また、体育館や校庭など学校施設の特色を生かし、健康教室や運動プログラム、地域交流イベントなどが開催され、多世代が利用できる地域交流の拠点としても機能している。

廃校施設の持つ既存ストックを最大限活用することで、建設コストの抑制を図るとともに、地域の思い出が詰まった学校を新たな公共施設として再生し、地域活性化にもつなげていることが特徴である。

【銚子市】 洋上風力発電を地域の新たな基幹産業と位置づけ、再生可能エネルギー導入促進と地域経済の活性化を一体的に進めている。その中核となる取組として、洋上風力発電設備の維持管理を担う「オフショアウインドサービス(株)」が設立され、風車メンテナンス事業の拠点整備や視察受入事業など、利益の地元地域への還元に取り組んでいる。

また、銚子市では港湾施設の活用や関連産業の集積を図りながら、地域企業の参入促進や技術者育成に取組み、洋上風力発電を「発電事業」にとどめず、メンテナンス産業を含めた持続可能な産業基盤の形成を目指している。

調査の所見・感想

【かすみがうら市】 特に印象的だったのは、単に廃校を再利用するのではなく、行政窓口、健康づくり、介護予防、子育て支援など、市民生活に密着した機能を一か所に集約することで、市民サービスの向上と行政運営の効率化を同時に実現している点である。また、学校の面影を残しながら地域住民が気軽に集える空間として再生されており、地域コミュニティの維持・活性化にも大きく寄与していると感じた。

本市においても、今後、公共施設の老朽化や人口減少への対応、廃校施設の活用などが重要な課題となることから、既存施設の有効活用や行政機能の集約、多世代交流の拠点づくりという視点は大いに参考になると考える。

【銚子市】 行政が民間企業や教育機関、港湾関係者などと連携しながら、地域全体で新たな産業を育てている姿勢は大変印象的であった。脱酸素社会の実現だけでなく、地域産業政策や雇用政策と一体となった取組みであることが、銚子市の大きな強みであると感じた。

本市においても、ゼロカーボンシティの実現を目指す中で、再生可能エネルギーを単なる環境施策として捉えるのではなく、地域産業の振興や雇用創出、企業誘致などの視点も踏まえた施策展開が求められる。